



ASA 5550 のスループットの最大化



(注)

この章は、Cisco ASA 5550 のみに適用されます。

この章で説明されているガイドラインに従って設定すると、Cisco ASA 5550 適応型セキュリティ アプライアンスは、スループットが最大になるように設計されています。

この章は、次の項で構成されています。

- [組み込みネットワーク インターフェイス \(P.2-2\)](#)
- [スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング \(P.2-4\)](#)
- [次の手順 \(P.2-6\)](#)

組み込みネットワーク インターフェイス

適応型セキュリティ アプライアンスには次の 2 つの内部バスがあり、銅線ギガビット イーサネットとファイバ ギガビット イーサネットを接続できるようになっています。

- スロット 0 (バス 0 に対応) には、4 つの組み込み銅線ギガビット イーサネット ポートがある。
- スロット 1 (バス 1 に対応) には、4 つの組み込み銅線ギガビット イーサネット ポートと、ファイバ ギガビット イーサネット接続をサポートする 4 つの組み込み SFP がある。

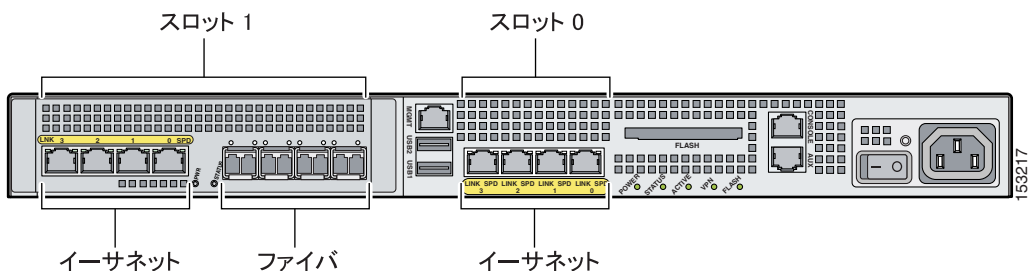


(注)

適応型セキュリティ アプライアンスでファイバ接続を確立するには、使用するファイバ ポートごとに SFP モジュールを注文して設置する必要があります。ファイバ ポートと SFP モジュールの詳細については、[P.3-6](#) の「[SFP モジュールの取り付け](#)」を参照してください。

図 2-1 は、Cisco ASA 5550 の組み込みポートを示しています。

図 2-1 ASA 5550 の組み込みポート





(注)

スロット 1 には 4 つの銅線イーサネット ポートと 4 つのファイバーサネット ポートがありますが、一度に使用できるのは 4 つの ポートだけです。たとえば、スロット 1 の 2 つの銅線ポートと 2 つのファイバ ポートを使用できますが、すでにスロット 1 の 4 つの銅線ポートをすべて使用している場合、ファイバ ポートは使用できません。

■ スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング

スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング

トラフィック スループットを最大化するには、トラフィックが 2 つのバス間で均一に分散するように適応型セキュリティ アプライアンスを設定します。これを達成するには、すべてのトラフィックがバス 0 (スロット 0) とバス 1 (スロット 1) を通過し、一方のバスから入ってもう一方のバスから出るようにネットワークを配置します。

図 2-2 と 図 2-3 では、すべてのトラフィックがデバイスの両方のバスを通過し、適応型セキュリティ アプライアンスが最大スループットを実現するように、ネットワークトラフィックが分散されています。

図 2-2 最大スループットのために均一に分散したトラフィック (銅線から銅線)

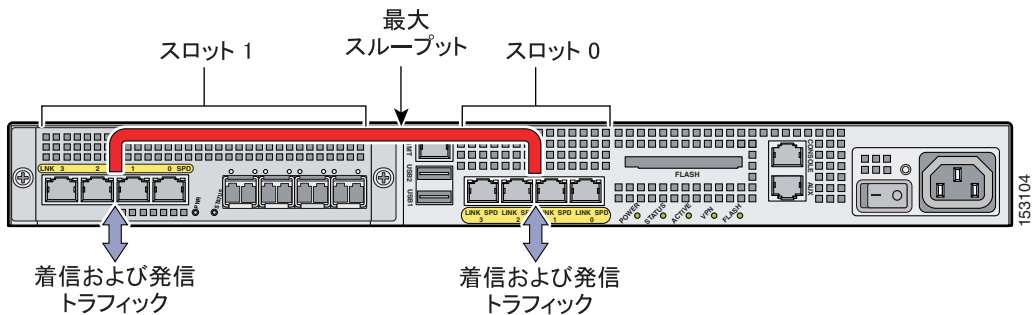


図 2-3 最大スループットのために均一に分散したトラフィック (銅線からファイバ)

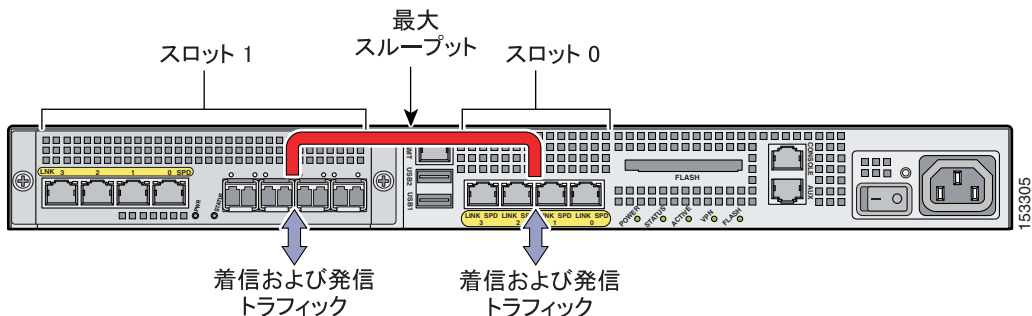
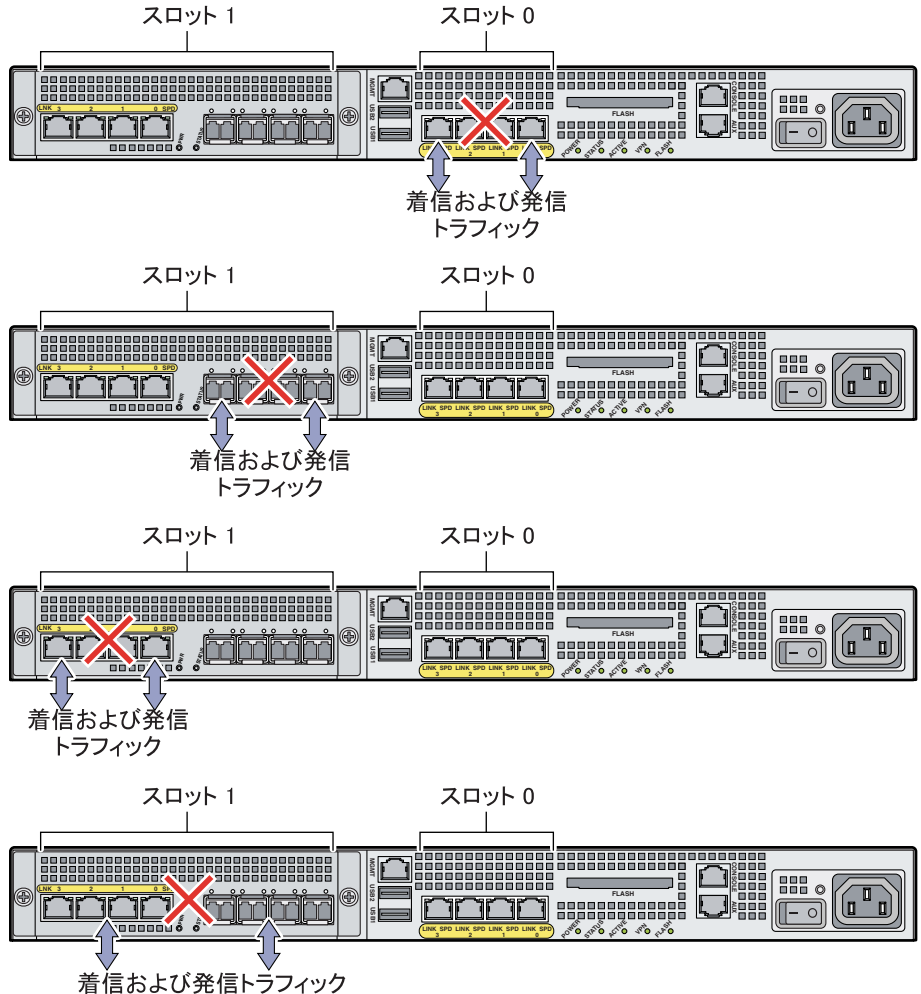


図 2-4 は、ネットワーク トラフィックが1つのバスしか通過しないために、適応型セキュリティ アプライアンスが最大スループットを実現できない設定をいくつか示しています。

図 2-4 最大スループットを実現できない設定



153306



(注) **show traffic** コマンドを使用すると、各バス上のトラフィック スループットを確認できます。このコマンドの使用の詳細については、『*Cisco Security Appliance Command Reference*』を参照してください。

次の手順

第 3 章「ASA 5550 の取り付け」に進みます。